



ハイマツから姿を見せた南アルプスのライチョウ

## 南アルプスの

## 高山植物を守ろう！

## 仙丈ヶ岳の防鹿柵設置作業

【南信森林管理署】

七月六日から七日の二日間、標高約二、七〇〇メートルに位置する伊那市長谷黒河内国国有林の南アルプス仙丈ヶ岳、馬の背ヒュツテ周辺において、南アルプス食害対策協議会（以下「協議会」）会員やボランティア等の総勢三十五名により、貴重な高山植物等をニホンジカの食害から保護するための防鹿柵設置作業を行いました。

平成十九年に長野県、伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村、信州大学農学部と当署により協議会が発足し、翌二十年から防鹿柵の設置作業が行われ、今年で十六年目となりました。その間、設置箇所を徐々に増やし、現在では十六箇所、総延長は一、八四七メートルに及んでおり、防鹿柵の中では、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイ等が生育しています。

作業初日は朝八時に伊那市長谷の南アルプス運行バス発着場を出

発し、北沢峠までバスで移動、そこから徒歩で約三時間かけて、作業場の馬の背ヒュツテに到着しました。作業内容の説明後、植生保護のために底の柔らかい地下足袋やスニーカー等に履き替え、三班に分かれて作業を行いました。

今年は雪解けが早く、例年より残雪が少なかったことから、ニホンジカによる高山植物の食害が危惧されましたが、幸い被害は見られず、両日とも好天に恵まれ、無事に作業を終えることができました。また、下山時には、ハイマツから姿を見せるライチョウの親子と出会い、富士山や、北岳、間ノ岳、鳳凰三山などの南アルプスを代表する雄大な山々を見ることができました。

これから仙丈ヶ岳を訪れる登山者の皆さんも可憐に咲く花々たちや素晴らしい風景等に癒やされると思います。

なお、九月下旬には、防鹿柵の支柱を外し、ネットを下げるなどの冬支度を行うこととしています。

シリーズ

# 森林官からの便り

【南信森林管理署

伊那里森林事務所】

首席森林官 下島 秀典

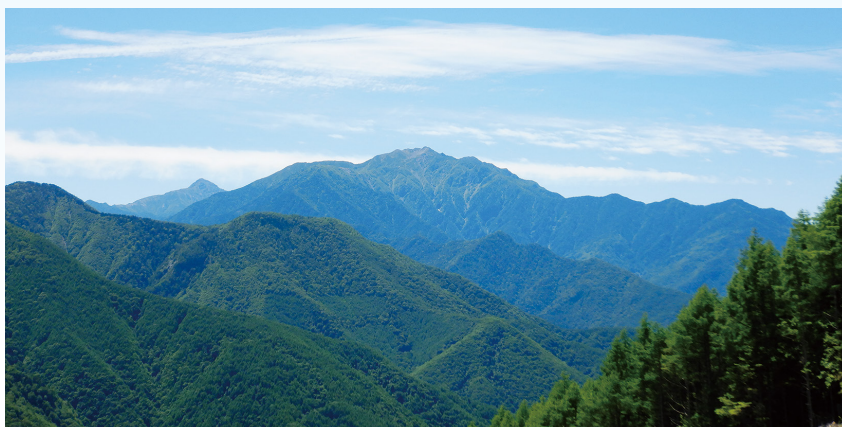
伊那里森林事務所は、長野県伊那市長谷に所在し、近くにはゼ口磁場で有名な分杭峠がありま  
す。山梨県や静岡県との境となる南アルプス北部、中央部の国有林を管理しています。

管轄しているのは、伊那谷森林計画区の黒河内・塩沢・浦国有林で、面積は合わせて約二〇、二四〇ヘクタを有し、面積の約三割が人工林で、管内の多くは天然林と高山帯が占めています。

管内には日本百名山にも選ばれている仙丈ヶ岳や塩見岳があり、登山や観光地として多くの方にご利用いただいています。

人工林の割合が少ない管内ではありますが、間伐や造林といった請負事業では、監督職員として国

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。



造林地より仙丈ヶ岳を望む

有林野での作業の確認、指示等を行っています。

現場は急傾斜地も多く、移動にあたっては体力だけでなく、足下の確認や足場の確保が必要です

が、ふと周囲を見渡すと目に映る南アルプスの絶景に癒やされながら業務を行っています。

また、重要な業務としてニホンジカ被害対策があります。

南アルプス食害対策協議会による仙丈ヶ岳馬の背ヒュッテ周辺での防鹿柵の設置では、ニホンジカによる食害対策を適確かつ効率的に行うことを目的に、伊那市や関係機関と連携し、ボランティアも募り実施しています。

地元の森林官として、参加者の皆さんに被害の現状をご理解いただくとともに、大変な作業を晴れやかな表情で行う姿に心から感謝しています。

色々な業務がありますが、地域に親しまれる国有林を意識して日々の業務を行っています。

## ■未来の担い手へのメッセージ

地域によって様々な特色があり、魅力的な国有林での仕事に興味のある方は、就職先の候補にしてはいかがでしょうか。



造林地での監督業務（右が筆者）



ボランティアによる防鹿柵の設置

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「らいちょうの森」



東洋計器株式会社 会長 土田 泰秀

■自己紹介

平成二年（一九九〇年）四月二十九日「みどりの日」に、水道やガスメーターを製造する新本社工場の敷地約四万平方メートルの一角に社員・家族・協力会社・旧地権者の皆さんの協力を得て、一千本の苗木を植え、三十年後には、緑豊かな森になることを願って「らいちょうの森」と名付けました。

植樹した木々は、枌の木・朴の木・ナナカマド・白樺・コナラ・雪柳・山吹・黒文字・白文字・檀香梅・アブラチャン・サンシユ・辛夷・マルメロ・檉・冬青など、



動植物や社員の憩いの場となる緑豊かな森に（2020年）



植樹直後の「らいちょうの森」（1990年）

工場内に植える行儀の良い木ではなく、信州の山中に自生するような木を多く選びました。また、ドイツ唐檜も植樹しました。

■活動内容

以来三十余年が経過し、立派な森ができあがりしました。除草剤は一切使わないようにし、下草は手で刈り取り、自然に任せた腐葉土が堆積しています。この「らいちょうの森」は、人間以上に動植物に人気があるようで、思いもよらぬキノコ「鬼フスベ」や、鷹の一種である鴛が巣を作り、子を育てて飛び立っていききました。鴛や鳥もドイツ唐檜の森が好きで、春が来ると森の上で領空権を争って闘っています。鴛・郭公・杜鵑・小啄木鳥・メジロ・シメ・百舌鳥・カワラヒワ・ヒヨドリ・椋鳥などが飛来し、鳥達が落としていったのか、森に「紫しめじ」が沢山のキノコを作りしました。

六年くらい前から、森の中に蛇が生息しています。生垣の上で気持ち良さそうに体干しをしている所を撮影、全長二メートルある、大物の青大将です。「東洋計器のアナコンダ」と呼称し、守り神としています。



守り神の青大将

■メッセージ

大切にすべきは、緑を守ること。ホモサピエンスがアフリカを出て七万年になります。自然と共に生活をしてきた人類が文明を手にし、都市を作り、森林を伐採し、CO2は産業革命より遙か前、七千年前から上昇しています。人類が、地上の緑を略奪したからです。

地球の酸素は、緑によってもたらされた恩恵であることを忘れてはならない。「らいちょうの森」を訪れた鬼フスベや鴛、青大将達に会い、そう感じています。



当社のガスメーターと鬼フスベ

○連絡先

本社／松本市和田3967-110  
電話／0263-48-1121  
<https://www.toyo-keiki.co.jp/>



シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第28回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

## 「森林パトロール」

森林の見回り、現地確認は国有林の業務の中で日常的に行われますが、「森林パトロール」「山岳パトロール」という言葉は特に高山植物保護のための巡視活動や登山者への呼びかけの際に使われることが多いです。



無線を携帯しての森林パトロール  
(昭和30年代後半・旧長野営林局管内)



パトロールの様子  
(昭和44年・現在の南信森林管理署管内)

北アルプスの上高地は大正五年に保護林が設定されたこともあり、松本営林署（中信森林管理署）により高山植物盗掘等取締の為の詰所（小屋）が作られ、巡視が行われました。高山営林署（飛騨森林管理署）でも大正時代から高山植物の保護管理活動が行われ、乗鞍岳には高山植物監視所もありました。また、富山営林署（富山森林管理署）、飯田営林署（南信森林管理署）などの高山地帯を管轄する各地の営林署管内でも森林パトロールが行われてきました。

森林パトロールは職員のほか、非常勤の森林保護員、学生・社会人のアルバイトの方々などの協力も得ながら巡視、入山者への指導・啓発などを行ってきました。時代と共に形式や課題に変化はありますが、入山者と国有林の間を取り持つ役割もあり、いつの時代も苦労が絶えないエピソードが聞かれます。



パトロールの七つ道具①のぼり②ハンドマイク③腕章④パンフレット⑤配布用グッズ（カード、バッジ、リボン）⑥保安帽⑦登山者の意見をもらう「らくがき帳」  
(昭和49年・現在の飛騨森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

# 揖斐川最上流部に広がるブナの天然林

三周ヶ岳ブナ生物群集保護林

## 設定目的

三周ヶ岳(さんしゅうがたけ)の周辺には、ブナを主体とした広葉樹の原生的な天然林が広がっています。

これらの希少なブナの群落を有する森林の保護・管理を一体的に行っています。

## 地況・林況

当保護林は、岐阜・福井県境に近い三周ヶ岳の周辺及び同山の北東方面に広がっており、揖斐川最上流部の岩肌が露出している尾根部と沢部が入り組んだ、急峻な地形が見られます。

日本海側気候の影響を強く受け、年間降水量は約二、八〇〇ミリメートル、岐阜県内でも多雨地域にあたります。

林内には、ブナなど落葉高木の老木上に着生する希少種のヤシヤビシヤク(ユキノシタ科の落葉低木)も生育しています。

所在地  
岐阜県 揖斐郡 揖斐川町



ヤシヤビシヤク

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

# Good Wood Workers

フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力!



作品名:「真剣勝負」

昨年度の「中部の森林林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」において、本作品で「優秀賞」を受賞された飛騨市森林組合の井端さんに、撮影した当時の想いや今年度の事業について取材させていただきましたのでご紹介します。

**井端さん**  
作品のことを教えてください!

静岡県の普通高校から飛騨市森林組合に就職してくれた新人さんが、時間をかけながらも伐倒する方向をしっかりと確認して、安全第一で木と向き合う様子を捉えた一枚です。

私は普段、事務の仕事をしていいますが、「林業を知るためには、現場に行かなければならない」と二年ほど前から現場に足を運んでいます。大きな木を伐倒している場面ではありませんが、いつも頑張っている新人さんの真剣な表情が良かったと思います。

**民有林の**  
林業の現場を取材してみたい!

事業地である飛騨市神岡町の六十年生の人工林をご案内いただき、間伐材の搬出作業を見学させていただきました。

事業地の面積は約二十五畝、森林所有者は二十六名いるとのこと、間伐する木は、所有者ごとに材積を調査し、同意を得てから伐採することのこと。

作業チームは三人体制で、山中で伐採した間伐材をタワーヤードの搬取機に取り付けて運ぶ人、運ばれてきた間伐材をハーベスタで造材する人、木材を町まで運搬する人と、作業が分担されており、林業機械を使った効率の良い連携作業でした。

現場をよく知る新田事業管理課

長から「林業機械の中でも特にハーベスタの操作にはセンスが必要で、この現場ではチームリーダーが操作し、作業の隙間時間を利用して造材した木材の末口直径も測る」と教えていただきました。

安全確認を第一として、次から次へと材を搬出する無駄のない動作、連携作業を見せていただき、みんなで頑張つて成果を出す活気ある職場だと感じました。

◆飛騨市森林組合のご紹介◆  
飛騨市は広葉樹林が多く、森林組合では、ナラ等の薪の製造販売を行っています。また「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」に参画し、地域の貴重な資源である多種多様な広葉樹材の価値向上に取り組んでいます。

従業員の平均年齢は四十二歳で、最先端の林業機械を積極的に導入するなど、地域林業の更なる発展を目指しています。

取材協力/飛騨市森林組合  
電話/0577-74-2030  
<https://hida-forest.org/>



## 編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

6月21日の早朝、公用車を運転し、松本経由で飛騨に向かいました。

4月のフォトコン表彰式で初めてお会いした飛騨市森林組合の井端さんは、とても気さくな方で、「今後とも現場の従業員に寄り添って、林業の魅力を若い世代に伝え、伝承できるよう努力していきたい」との熱いメッセージを聞いて、絶対に現地取材させてもらいたいと思いました!

飛騨の森林や林業、広葉樹材の取組など、どれも魅力的でしたが、一緒に働きたい、過ごしたいと思う「人」が職場や地域にいることが最大の魅力だと私は感じました。

取材当日、フォトコン写真の新人さんは、遠い現場で作業しており、お会いすることはできませんでしたが、いつかまた、林業の現場で活躍する姿を見せていただきたいと思います。

これからもフォトコン作品から繋がる林業の魅力を随時お伝えします!



森林組合として全国で初導入したオーストリア製のタワーヤーダ(キャタピラ式)は、悪路や狭所の多い作業道をリモコン操作で自走でき、現場で活躍しています!

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

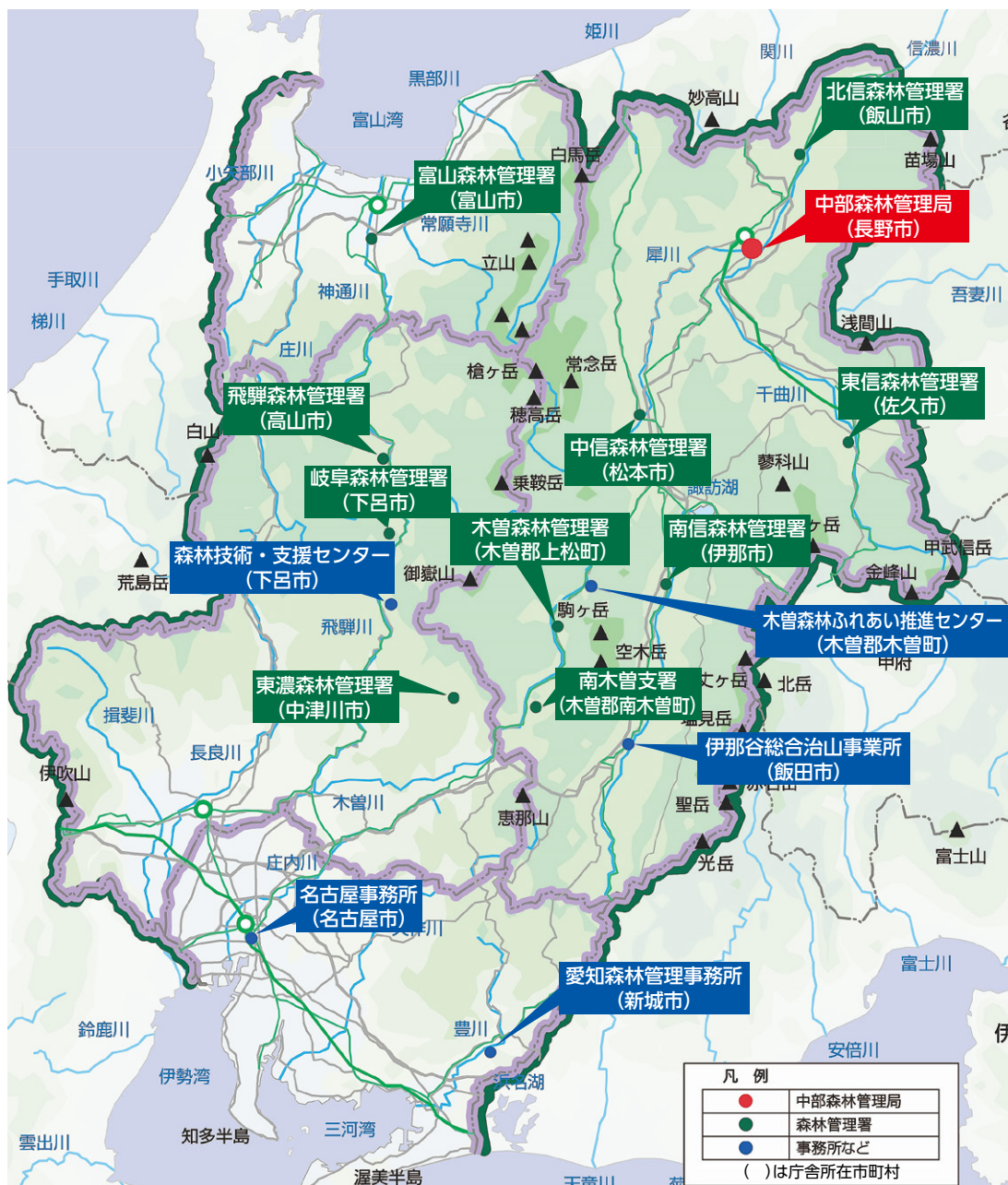


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。